

名城大学通信

ドラゴンズが
森越選手を
4位指名!

2010.12

No.41



中日ドラゴンズの指名を受け、チームメートとともに喜ぶ硬式野球部の森越祐人選手

エコキャンパスプログラムの集大成 「いきものシンポジウム」開催

第7回 名城大学Day

「ゼミ・学生活動紹介」都市情報学部 小池聡ゼミ

大学祭&文化祭

「輝く卒業生」山田 清文さん

杜の都駅伝

CAMPUS NEWS

第7回 名城大学 Day

教育ときずな

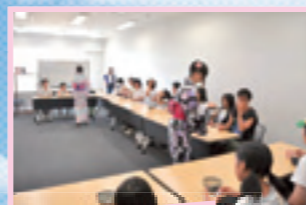
2010
9/18
[Sat]



【♡ 見る・楽しむ】



・クラブ等紹介
・ペロタクシーを体験してみよう!
・お絵かきバス
・パトカー・自バイ展示



【📖 知る・学ぶ】



・知の発信
(公開講座・展示紹介)
・進学相談コーナー

【👤 体験する・考える】



・「知の発信」(受験講座)
・命ときずなを考える

特別企画 1



名城大学 × 読売新聞
ECO CAMPUS PROGRAM

エコキャンパスプログラム
いきものシンポジウム

里山と自然、人とのつながり

[3~5ページ参照]

第1部 エコトーク

第2部 トークセッション

特別企画 2



創作童話朗読会

夢中人³

[けいさんとりゅうさん(おじん) withみずき]

(童話作家 鬼頭 隆氏(本学卒業生)、片岡 恵子氏、鬼頭 瑞希氏)

「新・桜の下で月の下で」

「柿の木のお話」

「ミニひなたぼっこコンサート」

【🛒 買う・食す】



・物品販売
・学生食堂無料体験

名城大学Day、 4800人が来場

晴天に恵まれた9月18日、「教育ときずな」をテーマに第7回名城大学Dayが天白キャンパスで開催され、約4800人が来場しました。特別企画では10月に名古屋市で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回締約会議のパートナーシップ事業として本学が読売新聞社と共催し、1年半にわたり展開してきた「エコキャンパスプログラム」を締めくくる「いきものシンポジウム」が開催されたのをはじめ、今年も「知る・学ぶ」体験する・考える「見る・楽しむ」「買う・食す」など盛りだくさんのイベントが用意されました。

初の参加をいただいた愛知県天白警察署は、パトカーと自バイを展示した他、愛知県警察のマスコットキャラクター「コノハけいびも登場。親子連れなどが記念撮影を行っていました。その隣では、同じく初参加の中部日本自動車学校によるシートベルト安全体験が行われ、エアバッグが膨らむ大きな音と凄まじい衝撃に体験者は驚きを隠せない様子でした。

また、附属高校総合学科ビジネスコミュニケーション系列が行った「地産地消を推進!」抹茶スイーツ販売は、2年生が授業で考案したビジネスプランの実践の場として設けられ、商品の「恋する抹茶豆腐」は予定数がすぐに売り切れるほどの人気ぶりでした。

【第2部】トークセッション

引き続き行われたトークセッションには、パネリストとして愛知県瀬戸市出身の写真家浅井慎平さん、コウノトリの野生復帰運動に取り組む兵庫県豊岡市の中貝宗治市長、東山植物園の岡島徳岳さん、本学都市情報学部の小池聡教授の4人が参加。「里山と自然、人とのつながり」をテーマに、岐阜県中津川市出身で自らも里山で育ったというフリーアナウンサー草野満代さんがコーディネーターを務め、草野さんをはじめ5人の皆さんが、「生物多様性」を身近に体験できる里山とその再生の意義について、それぞれの熱い思いを語り合いました。皆さんの発言要旨を紹介します。



50年前に豊岡市内の川で撮られた写真があります。7頭の但馬牛を見守る女性の周囲で12羽のコウノトリが遊んでいる。コウノトリは里山の大きな松の木の上に巣を作り、水田や川の浅瀬でカエル、ドジョウ、ナマズ、フナを食べます。同じ時代、通学路の子どもたちを水田で見送るコウノトリたちの風景も写真に撮られています。



兵庫県豊岡市長 中貝宗治さん

しかし1970年代に入ると環境破壊でこうした光景は消えました。とどめを刺したのが農業で、コウノトリは絶滅してしまいました。もう一度コウノトリのすめる町をつくらうというのが私たちの合言葉です。里山再生



変な努力です。里山活動を続けるには経済的な支えが一番大切ではないかと思えます。コストリカドは農家の方が観光ガイドとして生計を立てられるエコツーリズムという環境政策も実施されています。

東山植物園長時代に先進的な環境政策を推進している中米のコスタリカを訪れ、お会いした野生生物研究所所長の言葉がずっと忘れられません。「人は愛するものしか守れない」という言葉です。人は知らない物は愛せない。守るためにはまず知らしめることが大切だということです。動物園、植物園の役割とは、子どもたちが

東山植物園長 岡島徳岳さん

人は愛するものしか守れない

東山植物園長時代に先進的な環境政策を推進している中米のコスタリカを訪れ、お会いした野生生物研究所所長の言葉がずっと忘れられません。

市民に、野生のいきものを紹介する窓口となることではないかと思えます。東山植物園でも環境教育に軸足を移した再生プランを進めています。昔の里山の生態系は農業生産という経済活動の中で成り立っていました。現代社会の中には農作業と同じようには農作業と同じようには人間の力を自然に加えていかなければならない



名城大学×読売新聞
ECO CAMPUS PROGRAM
エコキャンパスプログラム

いきものシンポジウム 「里山と自然、人とのつながり」

日時 9月18日(土) 10:30~12:30

場所 天白キャンパス共通講義棟北 名城ホール

名城大学と読売新聞社は昨年4月から、岐阜県可児市の里山「我田の森」と可児キャンパスを舞台に、5回にわたり「エコキャンパスプログラム～親子里山自然教室」を開催してきましたが、その総括となる「いきものシンポジウム」が9月18日、第7回名城大学Dayの特別企画として天白キャンパスの名城ホールで開かれました。

【第1部】エコトーク ～エコキャンパスプログラムを振り返って～

下山学長と水尾教授が参加者と里山体験を総括

はじめに、自らも「親子里山自然教室」に参加した下山宏学長、人間学部の水尾衣里教授による「エコトーク」が行われました。エコトークには運営、指導にあたった「里山クラブ可児」のメンバーや参加親子、サポーター役を務めた都市情報学部の小池ゼミ、取材を続けた新聞会の学生たちも参加。四季折々、5回にわたり実施された親子里山自然教室での田植え、自然薯掘り、聴診器で木の音を聞いた時の驚きの体験などを振り返りました。

水尾教授は「皆さんが手にしている5回に

及ぶ親子里山自然教室を紹介したパンフレットにはたくさんの写真が紹介されています。どの写真を見ても子どもさんたちの顔が生き生きしていますね」と、参加した子どもたちにマイクを向けました。第1回に参加した名古屋市緑区の田中弘輔君(大清水小5年)は「田植えでは土がドロドロして歩きにくかったですが、毎日食べているご飯がすごく大事だと思いました」。小牧市から第3回に参加した中尾啓稔君(小牧小4年)は、自然薯掘りやハンモック体験などの楽しい思い出を語り、聴診器で聞いた木の音については「心臓の音みたいでした」と感動を新たにしていました。

一方、水尾教授から、学生の立場からの感

想を求められた新聞会の亀山由季さん(法学部3年)は「初めて里山を体験した子どもたちが多いのに驚きました。環境を守る上で大切なのは子どものころから自然に触れ合うことだと思います。その意味で、親子里山自然体験のプログラムは大きな意義があったと思います」と語りました。最後に下山学長は「名城大学では学生に対する環境教育は非常に重要だと考えています。エコキャンパスプログラムは大学の社会貢献活動であり、COP10のプロローグでもありました。大学としてこれからも環境問題に全面的に取り組んでいきたいと思えます」と1年半に及ぶエコキャンパスプログラムを総括しました。



下山 学長



水尾 教授

人と自然―多様なかわりを

都市情報学部 小池聡教授(地域計画論)

私が生まれた1960年を境に日本人の暮らしは大きく変化しました。人々は便利な暮らしを求め、田舎を去り都会に出た。台所にはガスが普及し、山から供給されていた薪は不用になり、農家では堆肥に代わり化学肥料が普及しました。里山はゴルフ場、住宅、工業団地として開発され、都市近郊に残った里山では不法投棄もすこい。

里山は使われなくなるとどんどん不健康になります。里山は身近にあり、そこで里山保全活動に携わっている方々はたくさんいます。子どもたちはぜひ、身近なところで里山を体験してほしいと思います。里山とのかかわり方は多様な方法があります。COP10と関係づけて、生物多様性という切り口から入ってもいいし、珍しい動物がいるから保護したいという入り方もあります。自分も楽しかった里山体験を子どもや孫たちにもさせてやりたいという人がいてもいい。生物多様性の前に、人と自然のかかわり方の多様性が重要だと思えます。



動物がいるから保護したいという入り方もあります。自分も楽しかった里山体験を子どもや孫たちにもさせてやりたいという人がいてもいい。生物多様性の前に、人と自然のかかわり方の多様性が重要だと思えます。

便利性コントロールする力を

写真家 浅井慎平さん



瀬戸市で生まれて小学校に上がる前に名古屋に引っ越しました。戦争で春日井市の高蔵寺に疎開しました。そこには亜炭鉱がありました。林、田園、小川、池がある里山の風景がありました。それが写真家としての自分にも色濃く影響を与えたのだと思います。最近、訪れる機会があります。ありましたが、里山と自然、人とのつながりが大きくなります。

変わってしまったことをいやでも実感せざるを得ませんでした。私が泳ぎを覚えたのは川でした。多くのお年寄りもそうだと思いますし私もそうです。自然の中で死んでしまふのではないかとというようなリアルティーのある体験をしています。リアルでない人間は成長しないし、豊かになりません。小学校で里山の四季を体験できる課外授業を必修にしてみるのも一つの方法だと思えます。文明の便利性を追求するのではなく、便利性、文明をコントロールする力を持たなければだめだと思えます。

里山の意義を語り、広めよう

フリーアナウンサー 草野満代さん



私は木曾川の支流である付知川をさかのぼった、中津川市と合併する前の恵那郡福岡町というところで生まれ、同級生が14人しかいない里山で育ちました。高校を出て大都会で暮らすようになりました。里山での暮らしを自慢に思えるようになったのはまだ最近のことです。時代は変わっただけです。13年前、京都で地球温暖化防止

の世界会議がありました。二ノスを伝えながら、多くの国民が地球温暖化って何？CO2って何？と戸惑っているなど感じました。でも13年の間に、大半の人たちが地球温暖化を何とかしなければと思うようになりました。生物多様性という言葉も、今はまだ「何？」と感じている人が多いと思いますが5年、10年もしたらものすごい勢いで広がっているかもしれません。そのきっかけになるかもしれない会議が名古屋で開かれるCOP10です。ぜひ、皆さんにも生物多様性、里山の意義を語り、広げる役割を担ってほしいと思えます。



第15回

ゼミ・学生活動紹介 都市情報学部 小池聡ゼミ

「名城大学×読売新聞エコキャンパスプログラム」。

このイベントの中心となった「親山里山自然教室」に欠か
せなかったのは、里山クラブ可児と都市情報学部小池聡
教授およびゼミ生の協力です。小池ゼミは里山クラブ可
児の皆さんとともに、普段から行っている里山の維持・再
生活動を生かし、運営に協力して来ました。

小池ゼミの研究テーマは「田園地域(カントリーサイド)
における環境創造」です。ゼミ生たちは①「農」のあるまち

づくり②グリーン・ツーリズム③生態都市(エコシティ)の
3つを研究のキーワードとし、卒業論文に取り組みます。

フィールドワークに力を入れており、自ら調査を行い、
足で情報を発見・収集することを重視しています。現場の
体験に基づいて仮説を練り上げていくのがこのゼミの
モットーです。

ゼミ長の山内雄貴さん(4年生)に話を聞きました。

A

Q2

小池先生の
指導は厳しい
ですか？

小池先生は「自分で
考えて行動しなさい」
という教育方針で学生
を指導されます。私は
残念ながらそのような
学生になれていないの
で、自分にとっては厳し
い先生かもしれません。

A

Q1

どのようなゼミですか？

所属しているゼミ生は4年生が
5人、3年生が6人、合わせて11人
と少なめですが、みんな良くやって
いると思います。

担当制になっていて、各担当者が
いろいろな地域に行つてそれぞれ調
査を行っています。私は里山クラブ
可児と一緒に活動させていただいて
おり、毎月第3、第4日曜日にゼミ
から1人参加し、間伐や草刈りなど
を行っています。

それ以外に、名城可児の森(可児

A

Q3

ゼミでの楽しさや
難しさは
どのようなところに
ありますか？

私は人と話したり一緒に何
かをしたりすることが好きな
ので、それが楽しいです。ただ
し、活動が主に山だったり田ん
ぼだったり森だったりしますの
で、草アレルギーの私は大変で
す。アレルギーの葉を飲みなが
ら活動しています。

キャンパス周辺を拠点に、荒れたと
ころを整備し、景観を整え、見栄え
を良くしたりするという大事な活
動があります。今日も、名城可児の
森を植樹のために間伐を行っていま
した。里山を維持する上で、間伐は
重要な作業です。

もう一つ、私たちのゼミは地域と
のコミュニケーションを非常に大切
にしており、他のゼミと特に異なる
点です。



ワークショップで各自の意見を出し合う

Q4

親子里山自然教室
では参加した親子
と触れ合いました。
いかがでしたか？

参加してくださる親子の方々が楽しそうにプログラムに取り組まれているのを見られたのは良かったです。子どもたちにとってはなかなかできない、貴重な体験だったのでないでしょうか。これからもこのような機会があると思います。



Q5

COP10の開催で、
里山や自然に対する
意識は変わりましたか？

ゼミとしての活動に変化はありませんが、個人的には、テレビでニュースをやっているところからチャンネルを変えたりするようになりました。また、動物が好きなのですが、名古屋で開かれた写真展で、漁業用の網に掛かったアザラシの写真などを見て「不法投棄をしてはいけない」と心が痛みました。こういう活動をしているとやはり自然と意識することがあります。



地元の方の話に耳を傾ける



Q6

エコキャンパスプログラムでお世話になった里山クラブ可児の皆さんはどのような存在ですか？

里山クラブ可児のみなさんはとてもやさしくて、器の大きい人たちがばかりです。一致団結していて、楽しく作業をしている印象です。年齢に関係なく、何でもこなしてしまうところに心から尊敬します。里山クラブ可児のみなさんがいる我田の森に行くのを、いつもとても楽しみにしています。



「里山クラブ可児」代表の松下さん

後日、小池ゼミは我田の森へ。地元の人から我田の森に関する話を聞いた後、「我田の森をどうしていくか」をテーマにしたワークショップを開き、いろいろなアイデアや新しい考え方を各自が出し合いました。「里山クラブ可児」代表の松下義人さんはゼミ生たちについて、「彼らは里山などにかかわる機会がなかなかない世代。なのに、一生懸命取り組んでいると思います。自分から質問をしてきたり、積極的に取り組もうとしたり。小池先生の教えがうまく伝わっているということだ

しょう」と話してくれました。卒業しても、地域の様々な活動に積極的にいかかわって、地域のコミュニケーションを大切にしていきたいと話してくれた山内さん。彼に限らず、ゼミ生は普段の生活ではなかなか得られない貴重な体験を経て、社会へと旅立っていきます。社会に出てからもずっと、自然環境を守ることの大切さが心に残るはず。そして、大学時代に体験したこと、感じたことは今後の生活にきつと生かされることでしょう。

名城可児の森で間伐作業を行う



方針 1

全国で戦えるスポーツクラブに特化して支援する

特別強化スポーツクラブ、強化スポーツクラブの合宿に対する援助

選手が切磋琢磨し、練習に打ち込む強化合宿に激励の電報と名城大学ミネラルウォーターを送付しました。
また、昨年と同様に女子駅伝部へは合宿視察を行い、激励しました。

【各クラブの合宿地】

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------------|----------------------------|
| ◆硬式野球部 | …………… 横浜市 | ◆アメリカンフットボール部 | …………… 信州北志賀高原竜王 |
| ◆女子駅伝部 | …………… 信州八ヶ岳富士見高原、北海道 野付郡 | ◆ラグビー部 | …………… 北海道 網走郡 |
| | | ◆柔道部 | …………… 男子：大阪体育大学 女子：香川県立武道館 |
| | | ◆バレーボール部 | …………… 近畿大学 |
| | | ◆ハンドボール部 | …………… 国士舘大学 |

世界、全国大会出場 選抜団体、スポーツ選手に対する援助(平成22年11月末現在)

●援助金

【団体への援助】

- ◆女子駅伝部 全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10/24 仙台市)
- ◆柔道部 全日本学生柔道優勝大会(6/26,27 日本武道館)、全日本学生柔道体重別団体優勝大会(10/30,31 尼崎市記念公園総合体育館)
- ◆ハンドボール部 全日本学生ハンドボール選手権大会(11/18~23 大阪市中央体育館 他)
- ◆準硬式野球部 全日本大学選抜準硬式野球大会(8/22~26 石川県立野球場 他)

【個人選手への援助】

- ◆女子駅伝部(野村沙世さん、小田切亜希さん) 世界大学クロスカントリー選手権大会(4/6~13 カナダ キングストン)
- ◆柔道部(古木里香さん) 全日本柔道体重別選手権大会(11/20,21 千葉ポートアリーナ)
- ◆バーベルトレーニング部(甲賀涼君、奥村純一君、武藤佳子さん、水野綾乃さん) 世界ジュニア・パワーリフティング選手権大会(8/28~9/7 チェコ共和国 ピルゼン)
- ◆洋弓部(細川紘平君) A.J.S.A.F-CUP大会(9/25,26 熊本県)
- ◆ライフル射撃部(平川貴彩君) 全日本学生ライフル射撃選手権大会(10/8~11 埼玉県)
- ◆陸上競技部(伊藤友明君、尾崎将也君) 全日本大学駅伝対校選手権大会(11/7 熱田神宮~伊勢神宮)



●物品援助

- ◆ボクシング部 小型パンチングミット 他
- ◆ラクロス部 オフィシャルゴール 他

方針 2

活躍する文化系クラブへ援助する

●援助金(平成22年11月末現在)

- ◆應援團吹奏楽部 ◆管弦楽団
- 應援團吹奏楽部・管弦楽団合同スプリングコンサート(5/2 アートピアホール)、應援團創團60周年記念事業式典(6/12 名古屋国際ホテル) 祝金
- 應援團吹奏楽部定期演奏会(11/27 ウィルあいち)

●物品援助

- | | | | |
|---------------|---------------------|---------|--------------------|
| ◆應援團吹奏楽部 | …………… ハーモニーディレクター 他 | ◆放送部 | …………… ノートパソコン 他 |
| ◆應援團リーダー部 | …………… パソコン 他 | ◆鉄道研究会 | …………… 電気機関車 他 |
| ◆應援團チアリーディング部 | …………… オーディオプレーヤー 他 | ◆日本酒研究会 | …………… アイスディスペンサー 他 |
| ◆新聞会 | …………… ノートパソコン 他 | ◆奇術部 | …………… アストロエピック 他 |

方針 3

就職活動を側面から援助する

本学キャリアセンターを通じて、在学生、卒業生の就職活動を支援

本年度も多くの賛助企業様から学生を支援いただいております。平成22年度賛助企業数229社、学内企業参加の賛助企業数143社(平成22年10月末現在)

名城大学Dayで展示ブースを出展

- ◆特別強化・強化クラブの7クラブの紹介 ◆子ども用のTシャツを500枚配布
- ◆卒業生で中日ドラゴンズの英智選手、清水昭信選手、山内壮馬選手の自筆サインボール抽選会(限定30個) ◆秘書室入口、タワー75・2階受付前設置のショーケースに英智選手、清水昭信選手、山内壮馬選手の自筆サインボールを寄贈

※タワー75・2階受付前のショーケースに展示中ですので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



サインボール抽選会に130人の小中学生が列を待ちました

スポーツ・文化後援会 ご協賛のお願い

本後援会は、学生のスポーツ・文化クラブの支援とともに在学生、卒業生に対しての就職活動を支援する目的で活動しております。何とぞ趣旨をご理解のうえ、ご協賛を賜りたく心からお願い申し上げます。なお、スポーツ・文化後援会ご協賛に係るお申し込み、お問い合わせについては右記までお願いいたします。

お問い合わせ

名城大学スポーツ・文化後援会事務局

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学学務センター内

TEL (052) 832-1151(代表)内線2663、2605 / (052) 838-2098(ダイヤルイン)

FAX (052) 833-5240

E-mail spobun@ccmails.meijo-u.ac.jp

◎名城大学一般入試日程早見表

入試区分	出願期間 (締切日消印有効)	試験日	受験票 発送日	合格発表日 (合格通知発送日)	法	経	経	人	都	理	農	薬
					学	営	済	間	市	工	学	学
					部	部	部	部	情	学	部	部
					報	報	報	報	報	報	報	報
大学個別学力試験方式	3科目型 A方式	2月1日(火)	1月24日(月)	2月11日(金・祝) 2月12日(土) 2月16日(水) 2月17日(木)	●			●	●			●
		2月2日(水)			●	●	●	●	●	●		
		1月5日(水) 1月14日(金)			2月3日(木)						●	●
		2月4日(金)										
		2月5日(土)										
	1月5日(水) 1月19日(水)	2月6日(日)	1月28日(金)	2月15日(火)	●				●			
理工学部 全問マークセンス M方式	1月5日(水) 1月14日(金)	2月4日(金)	1月26日(水)	2月17日(木)						●		
2教科型 B方式 (薬学部のみ3科目)	1月5日(水) 2月4日(金)	2月18日(金)	2月12日(土)	3月2日(水)	●	●	●	●	●	●	●	●
大学入試センター試験利用方式	センタープラス F方式	2月1日(火) 2月2日(水)	1月24日(月)	2月16日(水) 2月22日(火)	●			●	●			● 2月1日 のみ
		1月5日(水) 1月14日(金)			2月2日(水) 2月3日(木)					●		
	大学入試センター試験 + 大学個別学力試験	1月5日(水) 1月26日(水)	2月11日 (金・祝)	2月4日(金)		●	●					
	大学入試 センター試験 利用型 C方式	前期日程	1月5日(水) 1月14日(金)	—	1月24日(月)	2月22日(火)	●	●	●	●	●	●
後期日程		2月23日(水) 3月3日(木)	—	3月11日(金)	3月17日(木)	●	●	●	●	●	●	●

願書請求
お問い合わせ先

名城大学入学センター

052-838-2018

nyugaku@ccmails.meijo-u.ac.jp

お近くの受験生に
お知らせください。



「志願したい大学」で 東海エリア私大No.1に!

全大学では名大に次ぐNo.2

(株)リクルート「進学ブランド調査2010」

1位 名古屋大学

2位 **名城大学**

3位 南山大学

4位 静岡大学

5位 中京大学

6位 岐阜大学

7位 愛知大学

8位 三重大学

9位 名古屋市立大学

10位 愛知学院大学



参加者 中部地区初の
10,000人突破!

オープンキャンパス2010

7/31 SAT 天白キャンパス・八事キャンパス・
可児キャンパス

8/1 SUN 天白キャンパス・八事キャンパス

10/23 SAT 可児キャンパス



- 模擬講義、実験が人気!
- 入試問題集、赤本が品切れに!
- 親子連れ参加者も増える!

理工学部の現役女子大生が女子高生にアドバイス



可児キャンパスでのオープンキャンパス



資料配布コーナーも大盛況



「30分で分かる名城大学入試」には立ち見が



'10 大学祭



てのひら 掌 ~生まれる絆、広がる輪~

11月4日から6日にかけて大学祭が開催されました(可児キャンパスは5日、6日)。3キャンパスから約350もの団体が参加した今年度のテーマは「掌 ~生まれる絆、広がる輪~」。これは、人が手を使って思いや考えを伝え、手を使って感情を表現し、そこからコミュニケーションを図り、輪が広がっていくことで、学生たちが共に成長し、学生生活により良い影響を与えられるような大学祭と一緒に創っていきたいという願いから決まったものです。「大学祭に関わるすべての人の手で作り上げていきたい」という94人のスタッフの熱い想いが込められています。3日間とも安定した天候に恵まれ、多くの方が来場。屋内外の模擬店、学術企画、ライブなど多くの内容で、今年も賑やかな大学祭となりました。



実行委員長 平野 郁弥さん (経済学部3年)



INFORMATION 名城大学校友会からのお知らせ

地区別在学生交流会を開催

名城大学校友会では10月14日と11月11日、準会員である名城大学在学生の皆さんに校友会を理解していただくとともに、卒業後は校友会支部、卒業生の会、同窓会等で母校名城大学の発展のために活躍していただくため、名城大学地区別在学生交流会を校友会館のレストラン「ベル」で開催しました。

東日本地区(10月)、西日本地区(11月)に分けて開催された交流会は、各県別にテーブルを分けて行われました。開会の辞、学歌斉唱に引き続き、今回の交流会の趣旨と校友会の役割を林譽四朗校友会長が説明。中部地区最大の卒業生16万6000人を擁す校友会活動の内容と、卒業後の絆を深めるため校友会支部組織への参加を要請しました。下山宏学長からは大学と校友会との連携

関係をご説明いただきました。下山学長は各地域で活躍されている卒業生の活躍状況を紹介され、学生の皆さんに更なる応援をお願いします。

奥出宗重学務センター長による乾杯の後、歓談。学生は同郷ではあっても大学での交流は少ないこともあり、最初はよそよそしさが目立ちました。しかし、次第に打ち解け、懐かしい故郷の様子や出身高校での思い出話に花を咲かせていました。また自己紹介の後、地区別に分かれて下山学長と記念撮影をしました。

校友会では学生たちが、在学中に得た知恵と知識と経験を糧にして大きく成長を遂げ、各地区に戻ってから

も各職域において大きく羽ばたいていただくことを願っています。そして、皆様の活躍が母校を支える大きな柱となることを確信しています。



在学生と肩を組み記念写真におさまる下山学長

附属高校で 芸術鑑賞会と文化祭を開催

附属高校で9月17日に芸術鑑賞会、19日に文化祭が開催されました。芸術鑑賞会では、9月に竣工した第一体育館でタレントの勝俣州和さんを招いてトークショーが行われました。生徒会が全校生徒に呼び掛けて集めた約1000枚の写真で作られた勝俣さんのモザイクアートが飾られた舞台上で行われたトークショーでは、勝俣さんが高校時代の思い出、芸能界へ進んでから現在に至るまでを様々なエピソードを交えて語りました。生徒からの質問、芸人志望という生徒を舞台上に招いてのやりとり、会場は大いに盛り上がりました。最後に勝俣さんから、自身のこれまでの経験から「夢の実現には、自分の努力だけでなく運が必要であり、運は人が運んでくれます。これからのたくさんの出会いを大切に、多く学び、経験して夢を実現させてください」とのメッセージが送られました。

一方、文化祭のテーマは「名城パワーchu入!」。新型インフルエンザの影響で外来者の入場を制限した昨年の思いも込めて、1、2年生を中心としたクラス発表や文化部や委員会の活動展示が行われました。第二体育館では、ダンス部やチャリーディング部等の演技が披露され、詰めかけた来場者で校内は熱気に包まれました。また、2号館前にはPTAや各クラスの模擬店が立ち並び、終日賑わいました。

フィナーレとして1号館エントランスで恒例の大合唱(今年はFUNKY MONKEY BABYSの「涙」)が行われました。幕を閉じた今年度の文化祭は、生徒・教職員そして全ての来場者に溢れんばかりの「名城パワー」が注入されました。



薬と人脈を通じて続く
名城大学との深いつながり



名古屋大学医学部
附属病院(名大病院)教授
薬剤部長

やま だ きよふみ
山田 清文 さん

1981年
薬学部卒

愛知県出身。1983年3月薬学研究科修士課程修了。大塚製薬(株)徳島研究所の研究者として働いていた時の留学などが転機となり、名大病院の薬剤師に。その後同大助教授、金沢大学薬学部教授などを経て2007年から名大病院に戻り、教授、薬剤部長に就任。現在、名城大学客員教授でもある。

名古屋市の鶴舞駅前にある名大病院。名古屋市でも有数の巨大病院の「薬」に関する全てを担っているのが薬剤部です。薬と一言で言っても医薬品の管理、供給、情報提供から患者さんへの服薬指導、そして後継者となる薬剤師の育成など、業務は非常に多岐にわたります。

名大病院薬剤部長の山田清文さんにお話をうかがいました。

— 今の仕事に就くまでの経緯を教えてください。

もともと理系好きでした。中学生の頃、塾の先生が薬学部の学生だったことがその後の進路に影響を与えたと思います。地元で薬学部のある大学ということで名城大学に入学しました。

大学院を出て企業の研究員をしていた時に、アメリカの大学に留学する機会を与えてもらいました。そこで感じたのは、もう一度基礎研究をしたいということでした。留学後、偶然にも恩師である鍋島俊隆先生(当時名大病院薬剤部長、現名城大学薬学部教授)が研究者を探していたこともあり、企業を辞めて大学で研究を行う道を決意しました。

— 名大病院の薬剤部とはどのようなところですか。

一言で言えば、名大病院の薬の全てに関わる場所です。外来患者さん、入院患者さんへの薬の調剤、製剤から情報提供、薬の採用など様々です。それ以外にも、医師と連携して入院患者さんの服薬指導や、外来患者さんを対象とした薬剤師外来も行っています。薬剤師外来では、薬剤師が患者さんの状況を見て、

ぜんそく患者さんにステロイドの吸入方法を指導したり、ワルファリン(抗凝固薬)を服用中の患者さんの治療効果の向上や副作用の防止に努めています。慢性腎疾患の患者さんの生活の質を改善するためのCKD外来も

開設しました。最近では、名城大学を含めた近隣の薬学部の先生と共同して、薬剤師外来を運営しています。これは病院薬剤師と大学教員が共働して患者指導を行うもので、「薬・薬連携」としても重要です。

国立大病院を訪れる患者さんは、最先端で安全な医療を期待しています。その期待に応えるために最善の努力をするという使命が薬剤師にもあると思っています。新しい医療に貢献することもそうです。患者さんの(副作用の出やすい)体質、個々の病気の状態を把握しながら、最善の薬物療法を提供することが使命です。さらには、大病院では一般の病院の使命に加えて、「研究

活動」も重要だと考えています。薬剤部長になられていかがですか。

薬剤部長になった当時から、今も、責任の大きさを痛感しています。働いている約60人の薬剤師のベクトルを同じにするのは難しいです。そのためにはコミュニケーションが大事だと思っていますが、なかなか話す時間がないのが悩みです。

社会や患者さんの期待にどのように応えるかを常に考え、薬剤部の環境整備を意識し、研究しやすい環境を整えて、日本を代表する病院にふさわしい薬剤部にしたいと考えています。就任以来、少しずつ成果が出てきていると感じていて、活動の質、量を今後も増やしつつ、薬学部学生の臨床教育にも積極的に貢献していきたいと思っています。

— 大学、大学院時代はどのように過ごしていましたか。

剣道部に所属していました。ただ、学部の3年生まではあまり真面目とは言えず、仲間と雀荘に通っていました。4年生になって亀山勉先生(現名誉教授)

— 今の名城大学をどのように思いますか。

大学としては、女子駅伝部の活躍は嬉しい限りです。また薬学部は、日本の医療薬学、臨床薬学の先駆者だと誇りに思っています。臨床薬剤師教育を目指して薬学専攻科を作ったのも名城大学が最初です。先見性があったと思います。また、臨床薬学系の公的資金をコンスタントに獲得している点においても、全国の大学の模範ですね。



山田さんが勤める名大病院



コンピューターシステムを用い、多種多様な薬を調剤しています



薬に関するさまざまな情報を収集・管理しています



薬剤部長として様々なところに目配りを欠かしません

— 名大病院の学術フロンティア推進事業においては、共同研究者に名を連ねる山田さん。他大学の非常勤講師なども務め、多忙を極める毎日です。大学間の垣根を越えて、これからもエネルギーに活躍されることでしょうか。

— 在學生にひとこと。自分の夢に向かって努力をす

4年連続3位。今は我慢の時

10月24日、第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会、通称「杜の都駅伝」が仙台市で開催されました。仙台市陸上競技場をスタート、市役所前市民広場をゴールとする6区間38.6kmで競われ、頂点奪還を目指す女子駅伝部は4年連続の3位となりました。

昨年初優勝の佛教大学が2連覇、2位は立命館大学と上位3チームに変動はありませんでした。本学は2時間8分0秒の過去最高タイムを出したにもかかわらず、大会記録を更新した1位の佛教大とは5分16秒、2位の立命館大とも3分40秒の大差がついてしまいました。さらに、4位の松山大学、6位の鹿屋体育大学が初のシード校入りを果たすなど、他大学もレベルアップしてきています。

激走を終えた部員たちは、応援に駆けつけた校友会各支部や本学関係者らによる慰労式に参加しました。下山宏学長、さらに校友会本支部や女子駅伝後援会のあいさつおよび援助金贈呈などに続き、加鳥裕明部長、米田勝朗監督、生島希乃主将があいさつ。米田勝朗監督は「選手たちは力がないのではなく、力を出し切れなかったことで今回の3位という結果になりました。力を出し切る走りができるように練習を積み重ねていきたい」と誓いを新たにしていました。



下山学長のあいさつ



米田監督のあいさつ



女子駅伝後援会佐茂英昭会長から
生島主将に援助金贈呈



応援団のエール。大学、校友会関係者などが
今年も多数集まりました



「今度こそ」。部員たちはすでに
次の大会を見据えています



表彰を受ける亀井選手(右)と野村選手



仙台市陸上競技場を飛び出した選手たち(右から2番目が浦川選手)。後ろに見えるのはクリネックススタジアム宮城



1区
(5.8km)

浦川 有梨奈
(法学部3年)
TIME : 19分11秒



2区
(6.8km)

池田 絵里香
(法学部1年)
TIME : 22分20秒



3区
(9.1km)

野村 沙世
(法学部3年)
TIME : 30分09秒



4区
(4.9km)

須谷 綾香
(法学部3年)
TIME : 15分56秒



5区
(4.0km)

八木 絵里
(法学部2年)
TIME : 13分07秒



6区
(8.0km)

小田切 亜希
(法学部2年)
TIME : 27分17秒

亀井 久美子
(法学部4年)

リザーブ

谷水 見圭
(法学部3年)



EVENT

第1回オール名城父母懇談会を開催

10月23日、福井市において第1回目となる「オール名城父母懇談会」が開催され、在学生父母と校友会福井県支部、大学関係者合わせて116人が参加しました。

今回は大学の現状報告、父母と大学教員との個別面談、校友会と合同の交流会の3部構成で開催。大学の現状紹介を行った下山宏学長は「多様に化する社会に対応し、実社会で活躍しうる『実行力』が身に付く教育の推進に努めていきますので、今後もご理解とご協力をお願いします」とあいさつしました。引き続き、奥出宗重学務センター長と中根敏晴キャリアセンター長から本学の学生支援やキャリアサポート支援体制の説明がありました。

その後の個別面談では、各学部教員が



合同交流会では全員で学歌を斉唱

父母に対して、学部ごとの教育体制についてカリキュラム表などを使いながら説明し、子弟の履修状況や学生生活、進路等について父母からの相談に応じました。

校友会との合同交流会では、大橋正昭理事長が「より良い大学づくりのために、ご父母の皆さまのご意見がとても重要です。忌憚ないご意見を頂きたい」とあいさつ。交流会では、本学卒業生で日本有数のジャズ・サクソホン奏者である白井淳夫氏の演奏もあり、父母と校友会、大学関係者が「オール名城」としての懇親を深めました。



卒業生の白井淳夫氏による演奏



大学の現状報告を行う下山学長



各学部の教員が父母の相談に応じる

※「オール名城父母懇談会」は、各学部後援会・懇談会ごとに行われている地区懇談会を全学部合同で開催して、学部との繋がりがたくでなく、在学生父母と大学全体の信頼の構築とコミュニケーションの場を深めたいという目的で開催したものです。

EVENT

農学部創立60周年記念式典並びに祝賀会を盛大に開催

農学部は本年創立60周年を迎え、9月19日に記念式典と祝賀会を全日空ホテルズ・ホテルグランコート名古屋で開催しました。

記念式典では、大場正春学部長があいさつし、60周年記念式典の意義と今後の抱負について述べました。大橋正昭理事長、下山宏学長および林豊史郎校友会会長からも祝辞があり、これまでの農学部の努力や実績を称え、今後への期待と激励の意が表されました。続いて、農学部卒業生による記念講演があり、(株)ヤマミ醸造社長の竹内三之氏(昭和52年3月卒)は、自らの人生をユーモラスに、興味深い示唆や教訓をまじえ振り返りました。また、愛知県尾張農林水産事務所農業改良普及課課長の伊豆原親博氏(昭和48年3月卒)は、これまでの農業形態の変遷を紹介。「農業栄えて農業栄えるよう、新しい扉を開こう」と呼びかけました。

場所を移して行われた祝賀会では、本学管弦楽団員による学歌演奏の中、参加者が入場。まず、本会を共催した大西成長同窓会会長および加納寛樹後援会会長からのあいさつが行われた後、農学部卒業生で名城大学理事の松田昌久氏(昭和35年3月卒)による乾杯の発声があり、宴が始まりました。参加者は多数の農学部同窓生をはじめ、大学関係者、退職教職員、



多くの参加者が集った祝賀会

FACILITIES

附属高校で第一体育館が完成

附属高校において第一体育館が完成し、9月11日、竣工式などが行われました。神事には、大橋正昭理事長、下山宏学長をはじめとする法人、大学関係者、鈴木恒男校長、渡邊美智代PTA会長、武村學同窓会長ら高校関係者その他、設計施工関係者、地元の町内会長等約41人が出席し、執り行われました。

その後、2階アリーナに会場を移し行われた竣工式には、約240人の出席者が集まり、大橋理事長から「私立学校を取り巻く環境は厳しさを増しているが、引き続き、教育面の活性化と、更なる特色化を推進していく」とのあいさつがあり、鈴木校長からは第一体育館建設にあたってご支



完成した第一体育館

援ご協力いただいた関係者へのお礼とともに「第一体育館を大いに活用し、のびのびとした体育活動や部活動を展開し、生徒の夢を実現させていく」との言葉が述べられた他、同窓会から寄贈された緞帳の披露、PTAおよび同窓会への感謝状贈呈が行われました。

また当日は、1階柔道場において第1回世界柔道形選手権大会「投の形」部門優勝者による模範演武、2階アリーナにて開催

された竣工式祝賀会では、下山学長のあいさつ、スクリーンでの施設披露や本校ダンス部、チャリーディング部による演技披露も行われ、式典に華を添えました。



第一体育館のアリーナ

EDUCATION

文部科学省GP授業

「大学生の就業力育成支援事業」に経営学部の取り組みを採択

文部科学省が公募した大学教育改革支援事業のうち「大学生の就業力育成支援事業」に、経営学部の取り組み「現場触発型教育・学習による就業力の育成」が採択されました。

「大学生の就業力育成支援事業」は、文部科学省が、大学生の卒業後の社会的・職業的自立につながる就業力育成の向上に対する大学の教育改革を支援するために本年度から開始した事業で、大学、短期大学、高等専門学校申請分から、180件が採択されました。「現場触発型」の取り組みの趣旨は、学生の将来展望・キャリア形成に対する

意識を高め、体系的な学知・技法の学修の深化を動機づけ、自立的な就業力を育成することにあります。具体的には、ゼミナール教育を主たる教育の場に位置付け、基礎ゼミナールでの「キャリア形成教育」、専門ゼミナールでの企業の実態調査に基づく「現場触発型教育・学習」「研究発表」を実施します。また、今年度からは入門科目および実務実習関連科目の充実を図るなど、教育課程の改定を行っています。

講義・ゼミナール・企業実態調査による三位一体の学習スタイルを通して、学生の就業力を育成します。

EDUCATION

新司法試験に10人が合格

9月9日に、平成22年新司法試験の結果が発表され、本学法学部研究科から10人が合格し、目標としていた二桁合格を実現しました。

本年の新司法試験の結果は、合格率が過去最低の25.4%であり、厳しい中で二桁合格達成となりました。10人の合格者は、平成19年度修了の伊藤幸紀さん、児玉享さん、20年度修了の倉知孝匡さん、服部誠一さん、21年度修了の加藤友文さん、後藤睦恵さん、坂口斗志也さん、下野谷順子さん、樋田安史さん、吉田悟さんです。うち4人は、法学部系以外の学部出身者です。

10月6日に、合格者を囲んで懇談会が行われ、下山宏学長、池田輝政副学長、新居直祐副学長、篠田四郎法務研究科長と今後の抱負などについて懇談しました。



下山学長らとの懇談会に出席した今年の新司法試験合格者のうち8人のみなさん



ドラゴンズからの指名を受けて喜ぶ森越選手



待ち構えた野球部の仲間たちから祝福を受ける

CLUB エコノパワークラブが 全国大会で グループ優勝

10月10日に行われた「本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2010 第30回全国大会」が全国から450チームが参加して、栃木県茂木町のツインリンクもてぎ(スーパースピードウェイ)で開催されました。名城大学のチームはグループⅢ(大学、短大、高専、専門学校クラス102チーム参加)に出場。1リットルのガソリンで1656・807kmを走行し、記録1位でグループ優勝を獲りました。エコノパワークラブは8月28日開催の第2回もてぎ大会(関東地方大会)でも優勝を果たしていますが、全国大会での成績はこの時の記録1522・9km/Lを上回るものです。



中央(No.343)が優勝した省エネカー(ドライバー:交通科学科1年 井戸健斗さん)

CLUB ドラゴンズが森越選手を4位指名

10月28日に行われたプロ野球のドラフト会議で、名城大学から森越祐人選手(遊撃手、経済学部4年)が中日ドラゴンズに4位指名され、同日午後7時半から天白キャンパスで行われた記者会見で喜びを語りました。

森越選手は、ドラフト会議の進行中、大坪悟総監督、松永健二監督とともに学内で待機。会見場に持ち込まれたパソコン画面で行方を見守りました。4位指名を知った松永監督が「やったぞ」と声を上げると思わずガッツポーズ。球団関係者からの連絡を受けた大坪総監督も駆けより「おめ

ALUMNI 卒業生がアーチェリー で全国1位 アジア大会代表に

7月4日、静岡県掛川市のつま恋グリーンスポーツ広場でアーチェリーの広州アジア大会代表最終選考会が行われ、本学卒業生の宮原雅選手(2007年3月法学部卒、安井インターテック)が見事1位となり、代表入りを果たしました。この結果、宮原選手は11月に開催される広州アジア大会の男子4人の代表の1人となり、さらに団体のメンバー3人の1人にもなりました。宮原選手は在学中の2006年、世界学生アーチェリー選手権に出場し、6位に入賞しています。



下山学長を表敬訪問した宮原さん(右)

CLUB 世界ジュニア ハワリフティング 選手権大会に出場

8月30日から9月4日にかけて、チエコ共和国のピルゼンで行われた2010年世界ジュニアハワリフティング選手権大会に本学バートレーニング部から男女4選手が出場し、ベンチプレスで水野綾乃選手(理工学部3年)が見事3位に入ったのをはじめ、3選手が4種目で上位入賞を果たしました。9月21日には、鈴木正之監督ら6人が大橋正昭理事長や下山宏学長らを表敬訪問し、大会の結果を報告しました。



大橋理事長らに結果を報告する鈴木正之監督(右)

CLUB 柔道部が全国大会に出場、女子がベスト8

6月26、27日に日本武道館(東京都千代田区)で行われた、平成22年度全日本学生柔道優勝大会(男子59回、女子19回)に柔道部が出場しました。男子は1回戦で拓殖大学(東京)に2-1と引き分けましたが、内容で勝った本学の勝ちとなりました。しかし、続く2回

戦は明治大学(東京)に0-1と敗れました。一方、女子3人制は、1回戦は徳寺大学(関東)に3-10、2回戦は同志社大学(関西)に1-10と勝ち進みました。準々決勝は昨年度の優勝校、福岡工業大学(九州)と対戦し1-2と惜敗。敗れたものの、見事ベスト8となりました。

でとうとう祝福。森越選手は目頭を押さえながら「ありがとうございます」を連発した後、家族に連絡をとり、祝福を受けました。会見で森越選手は、「ドラゴンズは地元であり強いチーム。指名されるにしてもぎりぎりの下位だと思っていましたが、まさか4位とは想像していませんでした。若手も使ってくれる落合監督の期待に応えられるよう全力プレーで頑張りたいです。ドラゴンズには名城大学の先輩選手が3人いるので、とても心強い」などと抱負を語りました。会見後、タワー75の学生ホールに向かった森越選手は出迎えた硬式野球部員からクッキーで祝福を受けた後、胴上げされました。

CLUB 1部リーグ復帰の 硬式野球部は3位、 首位打者に牧内選手

秋季から愛知大学野球1部リーグに復帰した硬式野球部は全日程を終了し、3位となりました。優勝は愛知学院大学でした。開幕からの3戦はいずれも1勝2敗で惜しくも勝ち点を逃し、早くも2部降格圏内のピンチに立たされましたが、そこから連勝して、勝ち点を2とし、勝率で3位になりました。なお、牧内樹選手(法学部1年)が打率4割2分5厘で見事首位打者を獲得したほか、ベストナインにも牧内選手が三塁手、森越祐人選手が遊撃手、芳川浩嗣選手(経済学部3年)が捕手、黒澤智博選手(法学部1年)が一塁手で、それぞれ選ばれました。

CLUB 準硬式野球部が 全国大会でベスト4

8月22日から石川県金沢市において開催された第42回清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会において、本学準硬式野球部がベスト4に入る活躍を見せました。6月に開催された準硬式野球東海地区大学選手権大会において3位に入り、東海地区代表として8年ぶりに出場権を獲得していました。大会には全国9地区の代表16校が参加。1回戦は、北海道地区代表の北海学園大学に5-11、2回戦では関西地区代表の近畿大学との投手戦を制して2-1で準決勝進出。準決勝で九州地区代表の福岡大学Ⅱ部に0-5で敗れましたが、見事ベスト4に入る健闘でした。



ベスト4に進出した準硬式野球部のメンバー

TOPICS 「学食」マクドナルド 名城大学店が閉店 学生に根強い人気

8月4日、2000年4月に開店した6号館のマクドナルド名城大学店が閉店し、学生食堂として10年4か月の歴史にピリオドを打ちました。閉店は経営の効率化を目指した日本マクドナルド社の戦略的閉店策の一環で、全店の1割強にあたる433店のうちの1つとなったことによるものです。これは、名城大学店が「ミニマック」型と呼ばれた小型のサテライト店舗としてスタートしたことや、24時間営業ができないこと、また夏休みなどの長期休業期間があることにより、収益の増加が見込めないことなどが理由で、他大学でも閉店が相次いでいます。閉店が決まった7月初めから、店内には閉店を告げるバナー(ビニールフラッグ)や「私たちは名城が大好きでした」などと書かれたカードを張ったボードも出されました。学生の人気は根強く、行列は閉店の日まで衰えることなく続きました。



マクドナルド店内に掲げられた閉店を告げるバナー

クラブ成績報告

Table with columns: 所属, クラブ名, 開催期間, 場所, 大会・試合の成績・結果. Lists various sports clubs and their performance in various tournaments.

クラブ成績報告 [10月31日終了分まで]

Table with columns: 所属, クラブ名, 開催期間, 場所, 大会・試合の成績・結果. Lists various sports clubs and their performance in various tournaments.

洋弓部

集中力を研ぎ澄まし射的を射る



洋弓、すなわちアーチェリーは、センスや体格より努力が重要で、その結果が点数に結びつきます。的(1~10点)を狙って射る、シンプルながらも奥深い老若男女問わず楽しめるスポーツです。名城大学洋弓部もそんな魅力と目新しさに魅かれて、43人の部員のほとんどが初めて弓を手にしました。大学からのスタートでも、中には東海大会で入賞する選手がいます。

練習時の表情は皆真剣そのもの。掛け声の後、射る→的まで走る→得点を数える→矢を抜く→走る、をひたすら繰り返しま



す。主将の浅野力哉さん(理工学部3年)は、「上下関係はある程度しっかりしていますが、先輩・後輩で食事に行くなど、面倒見が良いのが伝統」と言います。OBの方が土曜日に大学の練習場に来て、練習するとともに後輩の指導も行います。

OBには日本屈指のアーチャーで、今年のアジア大会に日本代表

として出場した宮原雅さん(19ページ参照)も。浅野さん曰く、「憧れる大先輩です。持てる時間の全てをアーチェリーに捧げるような、雲の上の存在」とのこと。

選手たちは春に行われる団体戦「王座出場校決定戦」をはじめとする各大会で、上位進出を目指すべく、日々腕を磨いています。



想 い

全日本大学女子駅伝は今年も3位となりました。選手たちが走り終え、例年通り、会場内の一画で校友会や大学関係者によって「慰労式」が開かれました。今年、この場において、微妙な空気が漂っていたのを感じました。それは、「今年も優勝に手が届かなかった」という思いと、「今年もなんとか3位に入れた」という2つの想いからかもしれません。マイクを持った皆さんの口からは、「よく頑張った」の言葉とともに、その2つの思いが入り混じって伝わってきた気がします。

3位という結果に、米田勝朗監督は「選手は誰ひとり満足していません」と話しました。優勝を渴望している選手、スタッフにとって、満足のいく結果ではなかった

のは言うまでもありません。さらに、今年はずくば市で行われる予定だった全日本大学女子選抜駅伝が中止になってしまいました。それだけに悔しさはひとしおでしょう。

その場にいた誰もが女子駅伝部を名城大学の誇りとしているからこそ、慰労式には(優勝できなかった)悔しさと(3位以内を死守した)喜びが交錯していたのだと思います。

ちなみに、女子駅伝部は初出場から今年まで12年連続で入賞を果たしています。これは本学だけの誇るべき立派な記録です。